

Revised COMET English Communication I での 授業デザイン —平易な教科書テキストを言語材料にした活動—

中島 勲

1. 平均的な高校生の英語力

本校は工業高校であり、ほぼ全員の生徒が中学校までの学習に躓いてきており、学びの速度がゆっくりな CEFR の A1 レベル相当に達していない。文部科学省の平成 29 年度「英語教育実施状況調査」によれば、高校の第 3 学年に所属している生徒のうち、英検準 2 級以上(CEFR A2 レベル以上)を取得している生徒は 15.0%、(取得はしていないが)英検準 2 級以上相当の英語力を有すると思われる生徒は 24.3% と少ない状況である。また、中学校の第 3 学年に所属している生徒のうち、英検 3 級以上(CEFR A1 レベル以上)を取得している生徒は 22.0%、(取得はしていないが)英検 3 級以上相当の英語力を有すると思われる生徒は 18.7% となっている。進学校といわれる学校に勤務していると気づかずに見落としてしまうような日本の高校生の英語力についての現状がある。以前、大学生になった教え子に再会した際、こんなことを話してくれた。その女子生徒は、大学入試では必死に受験勉強をして見事首都圏の有名私立大学に合格した。ある日、都内の駅で英語話者の外国人に話しかけられて場所を聞かれた。相手が話していることはなんとなく理解できたが、英語で聞かれたことに応答することができなかった。あれほど高校の時に英語を勉強したのにと、私は自分の指導を反省したが、やはりそうであったかとも思った。彼女は大学で英語や英文学専攻ではない。英単語や文法を知識として学習し、長文を読んで多くの問題を解いていた。そのような学習者は頭の中で英文ができていても口から出て来ない。そこに平均的な高校英語学習者の実態が見えた。

2. 教科書本文の言語材料化

本校のコミュニケーション英語 I では *Revised COMET English Communication I* を使用している。各単元の内容は身近な話題が多く、言語材料も

とても易しいため言語活動をさせるには最適な教科書である。現在校で教えて 4 年になるが、中学校の学習で躓き、学びの速度がゆっくりな生徒を活動させるために、これまで英語教員同士で話し合いをしたり、試行錯誤をしてきた。普通科の生徒に比べ授業や家庭学習が圧倒的に少なく、語彙が不足しているため、教科書にある表現をフォーマット化して教えることは主体的・対話的に活動させる第一歩である。単元毎の実施事例は次のとおりである。

Lesson 1 “Why Do You Study English?”

<p>Goal : 意見とその理由が言える</p> <p>本文の最後にケンタが、I thought, “English is important!”とっていました。そこで「私にとって大切なこと(もの)」を①の【選択肢】の中から選んで理由を考えよう。</p> <p>①私は思います(意見を主張する)</p> <p>Hello! My name is (または I am) _____.</p> <p>I think [club / family / friends / future 将来 / life 命 / money / past 過去 / rules ルール / studying / time] _____ is (複数形なら are) important for me.</p> <p>②なぜなら(理由)</p> <p>because _____.</p> <p>まず日本語で考えて！</p> <p>③だから・・・最後にもう一度主張する</p> <p>So I think _____ is(are) important for me.</p> <p>(①で選んだもの 同じ文をもう一度繰り返す)</p> <p>次の時間に読んで発表します。読めない単語は読み方を聞いてください。</p>

最初のレッスンに、I think ... と ... is important. という意見を述べるのに最低限必要な表現があり、Assertion(主張)、Reason(理由)、Example(例)、Assertion(主張) [AREA] の形を最初から教えることができる。中学校で既習であるため、For example を入れることも可能である。入学後 2 つ目のパフォーマンス課題であったこともあり、ここでは原稿を見て読むことを可にした。

Lesson 2 “Washoku: Our Traditional Food”

目標 First, Second を使って、自分の考えについて理由が言える。
場面 新聞記事を読んで「夕食をそろって食べることに賛成か/反対か」理由も考える

① 私は思います (主張する)
 Hello! My name is (または I am) _____.

I think eating dinner with the family members is (good / not good).

② 2つの理由があります (理由を言う)
 I have two reasons.
 オリジナル・アイデアを まず日本語で考えて
 1つ目は、 _____ (だから)です。
 First, _____.
 2つ目は、 _____ (だから)です。
 Second, _____.

③ 最後にもう一度アピールする (①を繰り返す)
 So I think eating dinner with the family members is (good / not good).

Lesson 2 では、First, ... /Second, ...が登場する。また、食についての話題であったため Eating dinner with the family members is good or not good. について、理由を2つ考えて話す活動が可能で、ディベートにも発展できる。

Lesson 4 “My School, Your School”

目標 出身中学校と高校との違いを比較して、蕪崎工業高校の Good ポイントを言える。
場面 私たちの学校のオープンスクールで案内役の仕事を任せられました。中学3年生と保護者が校舎内を見学し終わって、いま解散するところです。そこで参加した中学生と保護者に学校の良さをアピールします。

① 私は思います (主張する)
 Hello! My name is (または I am) _____.

Nirasaki Technical High School is a good school.
 I think the (class 授業 / license 資格 / club 部活 / _____) is _____ the (good / interesting / unique) point,
興味深い、楽しい 特徴的な

② なぜなら (理由を言う)
 because _____
 オリジナル・アイデアを考えて
 なぜなら _____ (だから)です

③ 例えば (もっと詳しく言う)
 For example, _____
 オリジナル・アイデアを考えて
 例えば _____

④ 最後にもう一度アピールする (①を繰り返す)
 So Nirasaki Technical High School is a good school.

②、③の例
 I want to (get / study / be...).
 We can study about technical subjects.
について 工業科目

We can get (many licenses / a unique license / a useful license).
取得できます たくさん資格 珍しい資格 役に立つ資格

We can buy delicious (snacks / food / bento) for lunch.
 We have large school buildings and facilities.
広い校舎 設備

The (club members / classmates / teachers) are very nice and friendly.

このレッスンの話題は日本と海外の学校の比較で、関連させて中学校と高校の比較をさせながら、

AREA を完全に理解させ、さらに自分の学校への肯定感を持たせるという目的で、前述のようなパフォーマンス課題とし、グループで意見交換をさせた。「書くこと」の他に「話すこと(発表)」のルーブリックを生徒に提示して評価した。ルーブリックについては、教科会議で毎回のパフォーマンス課題前後に見直して改善を図っている。

ルーブリック 書くこと<上> ・ 話すこと(発表)<下>			
評価	書いてある内容(原稿)		
A 2点	①Assertion 意見・主張に対して、②Reason 理由 と ③Example 例 が両方とも十分具体的である。		
B 1点	①Assertion 意見・主張に対して、②Reason 理由 と ③Example 例 のどちらか一つが具体的でない。 because I just like~/ it is fun (interesting). 好きだから、楽しいなど ×感情的 ×抽象的		
C 0点	①意見・主張に対する ②理由 ③具体例が 書けていない。		
評価	見ているメモ	話し方・発音	姿勢・アイコンタクト (聞き手への意識)
A 2点	キーワードメモを見て話し内容を伝えることができる	声の大きさ テンポ、速度が十分である	身体、視線が聞き手に75%以上が向いている
B 1点	キーワードメモを見て話す内容がややわかりにくい	声がやや小さい テンポ、速度がやや遅い/速い	身体、視線が聞き手に50%以上が向いている
C 0点	キーワードメモではなく意見文の原稿をただ読んでしまっている	声がかなり小さい よく聞こえない	身体、視線が聞き手に50%未満しか向かない

一つの単元目標を「Assertion(主張), Reason(理由), Example(例), Assertion(主張)の構成を理解し、意見文を書くことができる。書いた意見文について、キーワードメモを見て言うことができる」とした。原稿を読むのではなく、書いた意見文から Rule of 5 words (5語以下)でキーワードをピックアップし、キーワードメモを見て話す。発表の仕方についてはこの時の方法の他に、暗記や Read & Look up ができるかをルーブリックにすることもある。

Lesson 5 “Peace, the Polar Bear”

リーディング・ストラテジーの Connect ✓ Extend !! Challenge ? をさせた。日本で初めて人工哺育を成功させた飼育員とシロクマの話について、各文の最後に3つのカテゴリーを示す印をつけながら読む。✓ I Know (これはわかる), !! This is New for Me (これは初めて知った), ? I Wonder (疑問)の3つのカテゴリーに分けることを意識しながら読むことで、自分の心情に近づけて(Making Connections)読むことができる。最も文の数が多いカテゴリーの英文をペアで読み合う。読む時に、I know

～, This is new for me, I wonder ～で始めさせる。

Lesson 6 “Flying Wheelchairs”

本文が Have you ever heard of the “Flying Wheelchairs” project? の文で始まるため、単元への導入で Have you ever...?/I have never... に過去分詞形を用いて作文したものをペアでインタビューさせる活動を行った。英語授業担当者の打ち合わせで、コミュニケーション活動ややり取りをするには 5W1H の疑問詞をきちんと理解している必要があると確認し、年度当初から計画的に 5W1H の疑問文を学び直させていた。以前教えた How many times...? や How often...? と繋ぎ合わせるとより発展したやり取りが可能である。

Lesson 8 “Convenience Stores:

the Keys to Their Success”

本文がスピーチ形式となっている。スピーチやプレゼンテーションをすることを目的に本文を読む。以下は使えるフォーマットである。

Today, I will talk about または I am going to talk about	
The first is	Look at this ...
The second is	
The third is	
So why don't you...?	

Lesson 10 “Ando Momofuku:

the Father of Instant Noodles”

このレッスンのセクション 2 については Sentence Scramble で読むことが可能である。

Task Put A)~G) into the correct order.
1st sentence: In 1966, Ando went to the United States.
A) At that moment, Ando got the idea for “noodles in a cup.”
B) He broke the noodles into small pieces and mixed them with hot water in the cup.
C) He used a fork to eat them.
D) He visited companies which were interested in his product.
E) However, they had no bowls.
F) In a supermarket, he asked buyers to try his noodles.
G) Then a man brought a paper cup.

各単元のテキストページの最後には、How About You? や What Do You Think? のコーナーがあり、自分のことに置き換えて考えて話したり、意見を言ったりする活動が用意されている。この部分を使って毎時間のウォーム・アップの Small

Talk や、単元の最終目標としてのコミュニケーション活動ができる。この課では、What is your motto? について、Think(考え)、Pair(ペアで伝え合い)、Share(クラス全体で発表)する。

3. Teacher's Manual 付属データの活用

ICT の授業への利活用という点で、デジタル教科書やパワーポイントデータの活用は、大変効果的である。まず *Revised COMET English Communication I* のデジタル教科書については、とてもシンプルで使いやすい。あまりにも機能に工夫がされ過ぎていて複雑であると、使いこなすのに労力が必要無駄も生じる。特に、前時の復習や確認のための音読に用いられるフラッシュカード機能は大変便利である。また、デジタル教科書に同様の機能があるが、次のようにテキストを加工して音読させることもある。生徒は意味内容を Remembering すると同時に、文を構築しながら本文を再生する。

Some s_____ in t_____ high schools
_____ an i_____ part in this project.
They r_____ r v_____ s in bad
c_____. One s_____ says, “I like
m_____ work, so I became
i_____ in this activity. Since I _____ed
this activity, I h_____ r_____ed many
v_____ s _____ my friends. The work
is hard, b_____ we enjoy it. I’m g_____ I can
_____ my _____s to h_____ other p_____.”

4. おわりに

限られた時間の中で準備をし、生徒が聞き手や読み手を意識して他者に配慮しながら、自分の考えや意見、気持ちを伝え合うことができる授業をするには、教科書と TM 付属データの活用が有効である。聞いたり読んだりした内容と関連付けながら、自分のことに Personalize させることで、主体的・対話的で深い学びになると考えている。初めの教え子の話に戻るが、高校できちんと英語を勉強していれば、教室の外でも英語を使えるようになる授業づくりを、これからも実践していきたい。

参考文献

文部科学省 平成 29 年度「英語教育実施状況調査」

(山梨県立韮崎工業高等学校 教諭)